進捗報告（資金分配団体）

● 提　出　日　：　2023 年 1 月 5 日
● 事　業　名　：　当事者会のピアサポート支援事業　生きづらさを抱えた者に対する当事者活動支援事業
● 資金分配団体　：　社会福祉法人　中央共同募金会

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
当事者活動の数、当事者会や家族会の支援者数が増え、最終的な受援者が増える	＜全国ネットワーク団体＞ 当事者会・家族会の会員数、研修への参加者数ホームページの閲覧数 ＜直接的な支援を行う団体＞ 活動の参加者数、相談者数	全国 6 ブロックにおいて、組織基盤が確立された当事者会、家族会が活動を行っており、各指標において数の増が見られる状態	2023 年 3 月	一部新型感染症による事業進捗への影響は残っているが、各実行団体とも概ね計画どおりに進行している。 ＜認知症の人と家族の会＞ 本人が主体となった交流の場の企画・実施について、8 月 28 日に研修を行い、31 支部から 145 名（本人 19 名）の参加となった。 ＜KHJ 全国ひきこもり家族会連合会＞ 家族会で活動するひきこもり経験者や家族などを対象とした「ひきこもりピアサポーター研修」を実施し、2022 年度はこれまで 38 名が新規認定者となった。 ＜女性ネット Saya-Saya＞	2

				DV 被害を受けた母子による当事者活動に 48 名が参加した。DV 被害に関する電話相談件数は月平均 71 件となっている。	
当事者活動の数が増え、地域的な広がりが出る。	＜全国ネットワーク団体＞ 当事者会、家族会の会員における支援者数 ＜直接的な支援を行う団体＞ 団体の活動における支援者数	全国 6 ブロックそれぞれにおいて組織基盤が確立された当事者会、家族会と連携・協働している当事者会、家族会がひとつ以上設立されている状態	2023 年 3 月	一部新型感染症による事業進捗への影響は残っているが、各実行団体とも概ね計画どおりに進行している。 ＜認知症の人と家族の会＞ 交流会運営者の資質向上のための研修会が開催され、120 名が参加した。 また、当事者、家族、専門職の参加により各ブロック会議が開催された。 ＜KHJ 全国ひきこもり家族会連合会＞ 家族会連合会＞ 家族会で活動するひきこもり経験者や家族などを対象とした「ひきこもりピアサポーター研修」を実施し、2021 年度は 38 名が新規認定者となった。 ＜女性ネット Saya-Saya＞ DV 被害を受けた母子による当事者活動に 48 名が参加した。DV 被害に関する電話相談件数は月平均 71 件となっている。なお、今後事業に参加する当事者の中から団体運営にも関わってくれる人を増加させていくことが課題である。	2

当事者が支援者となったり、当事者会を新たに立ち上げるなどで、当事者自身による発信の機会が増える。	当事者自身が発信した回数	全国 6 ブロックにおいて、組織基盤が確立された当事者会、家族会が活動を行っており、各指標において数の増が見られる状態	2023 年 3 月	実行団体において、当事者が中心となった情報発信が行われた。 ＜認知症の人と家族の会＞ 世界アルツハイマーデーにおける認知症啓発ツールとしてポスター、リーフレットを制作・配布した。 ＜KHJ 全国ひきこもり家族会連合会＞ 家族会やピアサポーター同士の交流の活性化により会員数が増加した家族会が約 5 割、当事者の参加が増えた家族会が 32.6%となった。 また、他の家族会と交流や意見交換を実施したのは 74%となった。 4 割の支部がオンラインを利用し、コミュニケーションの機会を増やすことができたと回答した。 ＜女性ネット Saya-Saya＞ DV 被害を受けた母子による当事者活動に 48 名が参加した。DV 被害に関する電話相談件数は月平均 71 件となっている。なお、DV 被害を受けた当事者自身の発信はハードルが高いが、個人情報に配慮した情報発信のあり方を検討する必要がある。	2
活動の広がりや発信の機会増を通じて、当事者活動そのもの	マスコミやメディアに掲載された数、ホームページの閲覧数	組織基盤が確立された当事者会、家族会において、常時新規	2023 年 3 月	実行団体において、メディア等に対する情報発信が行われた。 ＜認知症の人と家族の会＞	2

の社会的認知が広がる。	の数	相談の受付が行われ、ネットワークでの援助が行われている状態		認知症支援のオレンジ色に全国の城やタワー・名所等をライトアップする事業を継続し、地元新聞に取り上げられた。 ＜KHJ 全国ひきこもり家族会連合会＞ ひきこもりピアサポーター研修認定のインタビュー動画のホームページ掲載等により、ホームページの閲覧者数や SNS でのシェア数が増加傾向である。 また、研修や講演会においてピアサポーターとしての体験発表の依頼も増加していることから、ピアサポート活動に対する認知が広がっている。 ＜女性ネット Saya-Saya＞ 新型コロナウイルス感染拡大下において、DV 被害が社会問題として認知され、ニュースにも取り上げられる機会が増加したことにより DV 被害者支援を行う（当事者）団体といった認知が広がっていると考えられる。	
当事者活動同士の連携協働数が増える。	異なった課題に取り組む当事者会や家族会における連携協働数	異なったブロック間、または課題を超えたネットワークが構築され、機能しており、他の地域や活動に対して開かれて	2023 年 3 月	実行団体において、当事者活動同士が連携した取り組みが進められた。 ＜認知症の人と家族の会＞ 当事者、家族、専門職の参加により全国でブロック会議が開催されているほか、近隣支部との日常的な情報交流が行われている。	2

		いる状態		＜KHJ 全国ひきこもり家族会連合会＞ 家族会やピアサポーター同士の交流の活性化により会員数が増加した家族会が約 5 割、当事者の参加が増えた家族会が 32.6%となった。 また、他の家族会と交流や意見交換を実施したのは 74%となった。 4 割の支部がオンラインを利用し、コミュニケーションの機会を増やすことができたと回答した。 ＜女性ネット Saya-Saya＞ ＤＶ被害を受けた母子からの相談内容が、緊急的に支援が必要と判断するケースにおいて専門機関との連携機会が増加している。	

【非資金的支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
ネットワークのプラットフォーム化を活性化するために、自立して地域の社会福祉協議会との連携や、都道府県共同募金会からの助成、企業へのファンドレイジングとの関係づくりが行えるようになる状態。	・都道府県共同募金会からの助成実績 ・企業からの寄付実績 ・地域の社会福祉協議会との連携実績	全国団体に対して助成を行うことにより、組織基盤が確立された当事者会、家族会について、各指標において数の増が見られる状態	2023 年 3 月	・都道府県共同募金会と連携した実行団体支部におけるファンドレイジング実績:2 団体(支部)･497,912 円（2022 年度） ・都道府県共同募金会から実行団体支部への助成実績：のべ 44 事業・10,438,632 円（2022 年度実績） ・企業から実行団体への寄付やボランティア件数：1 件（2022 年度） ・全国ネットワーク組織の支部と地域の社会福祉協議会との連携実績の増加に向けた広報活動を展開する必要がある。	2

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況

A：変更項目 ☑変更なし　☐短期アウトカムの内容　☐短期アウトカムの表現　　☐短期アウトカムの指標　☐アウトカムの目標値
6.(任意)非資金的支援の活動に関する報告
・実行団体との個別面談の実施、実行団体の研修会への参加 ・JANPIA 担当者との実行団体訪問

② **広報に関する報告**

1.　シンボルマークの使用状況
☑自団体のウェブサイトで表示している　　☐広報制作物に表示している ☑報告書に表示している　☐イベント実施時に表示している　☐その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：
2.　広報
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等） 2.広報制作物等 実行団体の活動を紹介する動画を制作 https://www.akaihane.or.jp/news/28094/ 3.報告書等 中央共同募金会令和 3 年度年次報告書（P35） https://www.akaihane.or.jp/wp/wp-content/uploads/ebd0b0f75c089aae76692dea218251e6.pdf 4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等）

添付資料

活動の写真（画像データは 1 枚 2 MG 以下、3～4 枚程度）

世界アルツハイマーデーの啓発活動（認知症の人と家族の会）

ピアサポーター基礎研修（集合研修 in 高知）（KHJ）

実行団体の活動を紹介する動画（saya-saya）